

令和4年度 環濠エリア社会実験 結果報告書

建築都市局 都心未来創造部 堺駅エリア整備担当

環濠エリア社会実験 実施概要

社会実験2022 in 環濠エリア

【実施日時】

令和4年11月12日（土） 11：00～16：00（内川河川敷は19:00まで）
13日（日） 11：00～16：00 ※13日は雨天のため中止

【実施場所】

ザビエル公園・内川河川敷

【実施目的】

- ①環濠パブリックワークショップで出た「やってみたいこと」を実践し、居心地の良い暮らしは自分の手でつくれるという認識を深めてもらう。【実践者】
- ②公共空間の使い方や居心地の良い過ごし方を体験、公共空間を活用する機運を高める。【体験者】
- ③社会実験を見てもらい、公共空間利活用の取組を知ってもらう。【その他一般利用者】



【実施内容】

環濠パブリックワークショップで出た「やってみたいこと」のアイデアを実施。

ザビエル公園：読書・PC作業・楽器演奏（オルゴール・クラリネット）、休憩・飲食ができるくつろぎスペースの設置、素足で遊べるエリアの設置、野点によるお茶のふるまい、ドローン飛行、ヨガを使った健康体操、清掃活動、パン・コーヒーの提供

内川河川敷：休憩・飲食ができるくつろぎスペースの設置、映像上映会

【調査項目】

- ・実践者アンケート調査
⇒ 公共空間の利活用について感じたことや課題などを調査
- ・体験者アンケート調査
⇒ 社会実験を体験した方の属性や満足度などを調査
- ・ビジュアルインスピレーション調査
⇒ 「ザビエル公園」「内川河川敷」で今後どのような過ごし方をしたいかを調査
- ・スナップショット調査
⇒ 畳什器の使い方などアクティビティの様子を写真で撮影し、特徴的な使われ方やアクティビティについて調査

実践者アンケート調査

■今後の取組の参考とするためアンケートを実施。（社会実験実践者10人の内、9人が回答）

“社会実験の参加理由”について

- 「環濠エリア内の公共空間利活用への関心、共感」がほとんど
 - ・9人中8人の方が「社会実験への関心、共感」、「環濠エリア内での公共空間の利活用への関心、共感」のどちらか、または両方に回答
 - ・その他の意見として「同好の趣味の人が見つかるかもと思った」、「法人の活動の一環」なども

“公共空間の活用についての発見、可能性”について

- 「可能性は大きく、賑わいの創出ができると感じた」（意見抜粋）
 - ・公共空間の魅力、利活用について可能性が大きいと感じた。
 - ・社会実験では、「野点でのお茶のふるまい」に携わったが、良かったと感じた。
 - ・社会実験では、市民の能力やスキルを活かすことで、お金をかけず賑わいづくりができるものだと感じた。
 - ・社会実験参加者以外の地域住民も、ザビエル公園でお茶やコーヒーを飲んだり休憩して過ごす方がいた。
 - ・ザビエル公園は、意外に色々なことが出来ると感じた。特に楽器の演奏が新鮮でした。

公共空間の日常的な活用について課題と感じたこと

アンケートの意見（要約）	今後の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・自主的に公共空間を管理する人の不在。 ・公共空間を使って日常的に取組を実施する場合、人手が足りていない。 	取組を見せながら、愛着を感じる人、関わる人を増やす必要がある
<ul style="list-style-type: none"> ・いまのままのルールの上で延長線上に、緩和ルールを設定。 ・使用ルールが明確でないため、公共空間を有効に活かすことが出来ていない。 	今の公園の使い方を踏まえ、新たなルールづくりが必要
<ul style="list-style-type: none"> ・まちなかの余白にもまだまだ有効活用できる場所がある。 ・公共空間が、堺に関係の深い企業や商店が気軽に使える場所になっていない。 	堺の独自性を踏まえたストーリーを持った活用が大切

今回のような社会実験や取組があればまた参加したいかについて

- 「また参加したい」がほとんど
 - ・9人中8人の方が、次回も同じような機会があれば「参加したい」と回答
- 参加したくない理由：今回参加する際の計画を立てるにあたり、出来ること出来ないことのルールが分かりにくかったため、どの様なアイデアが実施できるか判断ができなかった。今後ルールを明確に示した社会実験実施は困難と感じたため。

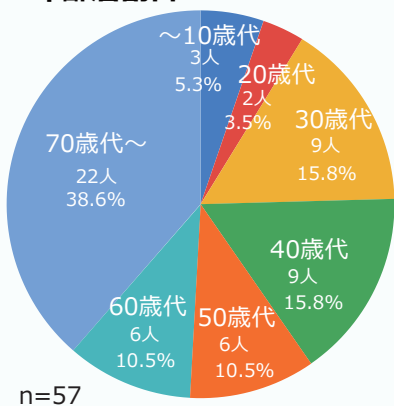
体験者アンケート調査

■ 社会実験を体験した方にアンケート調査を実施

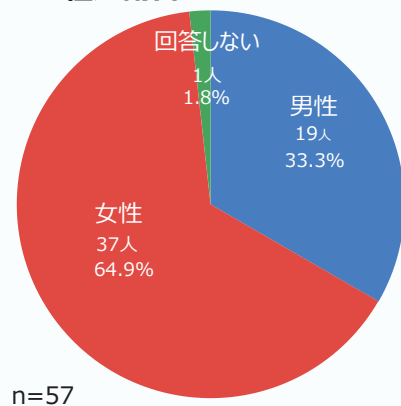
(社会実験体験者57人が回答)

属性について

年齢層割合



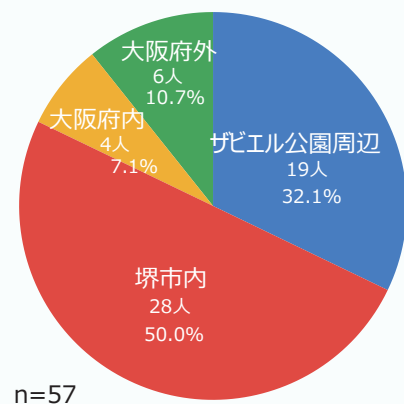
性別割合



・体験者（回答者）の大半が60歳以上であった。

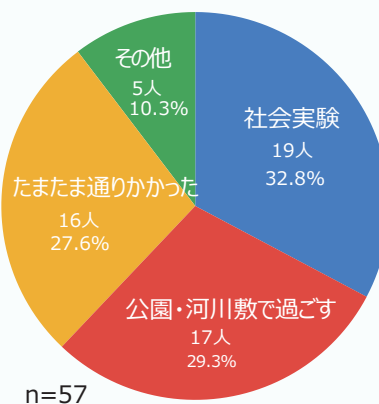
・回答者の6割が女性であった。

住まいについて



「堺市内」「ザビエル公園周辺」の方が全体の約8割。

訪れた理由について



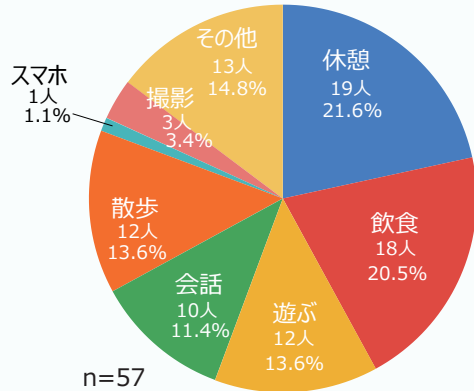
「社会実験」「公園・河川敷で過ごす」「たまたま通りかかった」が約3割。



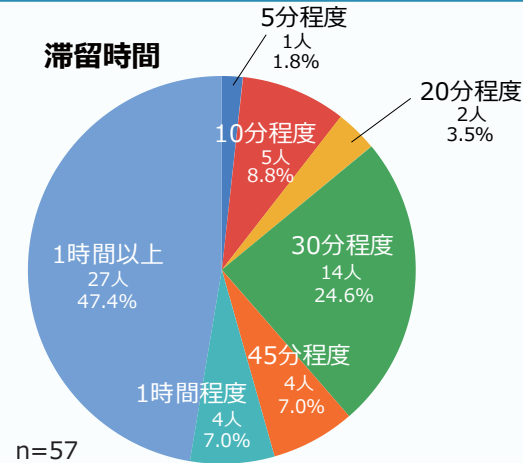
体験者アンケート調査

過ごし方について

どのように過ごしたか（複数選択可）

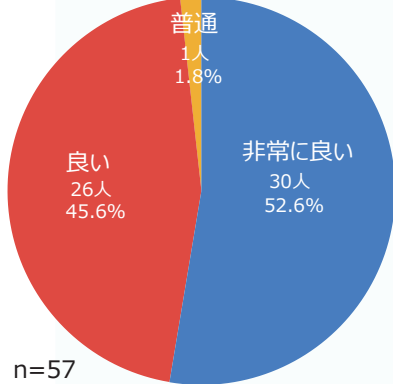


滞留時間

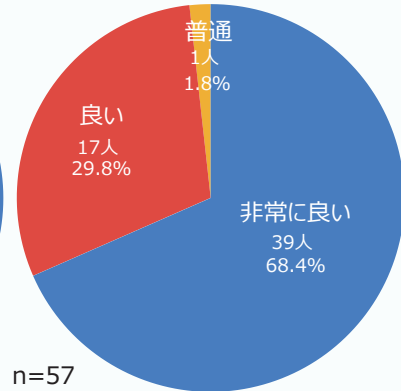


社会実験の印象

普段と比べた際の社会実験の空間の印象



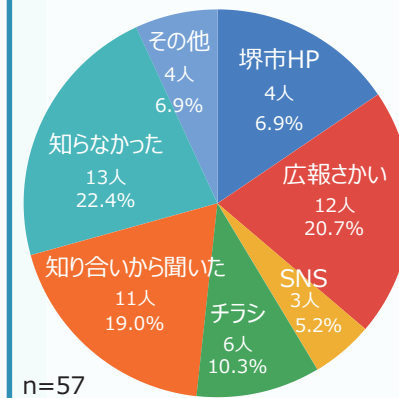
取組に対する印象



・社会実験の空間について回答者の約9割が「良い」「非常に良い」と回答している。

・取組については全体の約9割が「良い」と回答している。

社会実験の周知について



・「知らなかった」が最も多い結果となった。

・堺市が発信した媒体では「広報さかい」が最も多かった。

・「知り合いから聞いた」方も多くみられた。

今後やってみたい公共空間の使い方について

■ 日常的な使い方

- ・いろいろな世代との交流の場
- ・ゆっくり過ごしたい
- ・読書や休憩、飲食、気分転換、昼寝
- ・カフェで休憩しながらゆっくり過ごす（子どもを遊ばせながら）

■ 非日常的な使い方

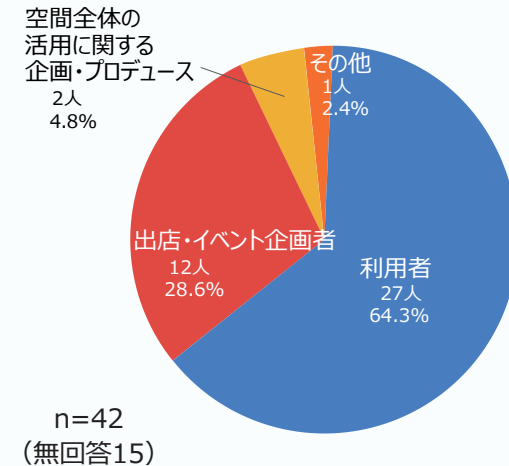
- ・仲間とフリーマーケット
- ・野点
- ・趣味の園芸品の販売
- ・寄せ植えワークショップ

■ 環境整備して欲しいもの

- ・Wi-Fi 環境
- ・ハンモック

※自由記述

今後の公共空間への関わり方



全体の約6割が「利用者」にチェックしており、自らが主体的に今後の利活用に関わりたいという認識でないことが分かった。

一方で、約3割が「出店・イベント企画者」「空間全体の活用に関する企画・プロデュース」を選択しており、積極的な関わり方を想定されている方も一定数存在することが分かった。

ビジュアルインスピレーション調査

■ やってみたいアクティビティにシールを貼ってもらい、ザビエル公園、内川河川敷でやってみたいことを調査した。

集計結果

赤：ザビエル公園・・・アクティビティ 42 種類

シール枚数 208 枚

青：内川河川敷・・・アクティビティ 36 種類

シール枚数 77 枚

ザビエル公園で今後やってみたいこと上位10位



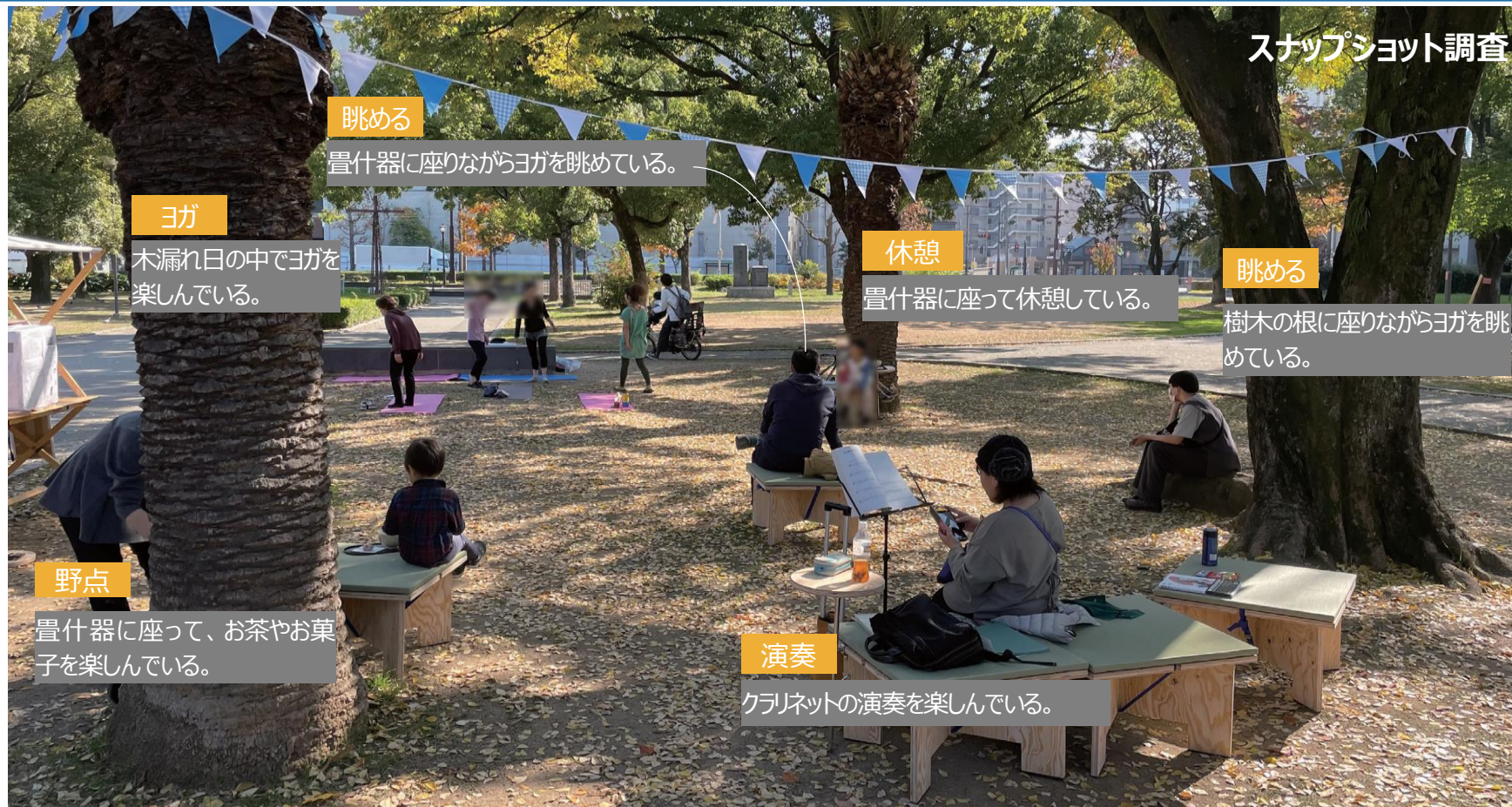
上位には、「ふとん太鼓」「芝滑り」「シャボン玉」といった回答があった。
他には「バーベキュー」「ハンモック」「ヨガ」といった回答が多かった。

内川河川敷で今後やってみたいこと上位10位



上位には、「星を見る」「花火を見る」「縁側」といった回答があった。
他には「川遊び」「ライブ」「バーベキュー」といった回答があった。

スナップショット調査



眺める

畳什器に座りながらヨガを眺めている。

ヨガ

木漏れ日の中でヨガを楽しんでいる。

休憩

畳什器に座って休憩している。

眺める

樹木の根に座りながらヨガを眺めている。

野点

畳什器に座って、お茶やお菓子を楽しんでいる。

演奏

クラリネットの演奏を楽しんでいる。

- 今までと違う公共空間の使い方について考え、実践することについては、概ね共感を得ることができた。
- 取組を継続し、発展させるためには、戦略的に広報し、関わる人を増やす必要がある。
- 今後の公共空間の利活用にあたっては、新しい使い方、使われ方の“ルール”を整理する必要がある。